

2024. 9. 24 光の世界を楽しむ

8月終わり、年中児の女の子がスライムをもって一人水槽の横に座っています。

教師は何気なく、「そのスライム素敵だね！中が透明でキラキラしているし、光を当ててみてもきれいかもね？」と声をかけ、スマホのライトの上にスライムを置いてみます。

すると、淡い光でスライムが光り始めました。

その光を見て女の子の目もキラキラします。嬉しくて、スマホのライト上にスライムを置いたまま、担任の先生に急いで見せに行きます。その子は次の日も次の日も、スライムを作っては教師にスマホを貸してと言いに来ました。

その後、懐中電灯でスライムを当ててみたり、ライトテーブルの上に置いてみたりします。スライムの色を日々変えていきます。「ピンクの方がきれいかな？色をもう少し薄くしてみよ！」とスライム遊びにも変化が見られます。

年長の子がライトテーブルの上でスライムの型抜きをして遊んでいると、そのまねをして楽しむ年中さん。

光遊びでもあり、造形遊びでもあります。

また異学年で遊び方が違うからこそ、遊びの広がりへとつながります。

ただのスライムではなく、シェービングクリームをいれたスライムではまた光り方が違いました。

次の日、年中の保育室にキラキラ BOX が登場します。

暗い BOX 中では、カラーセロハンを切り取り、ライトで当ててその光を楽しみます。

他の女の子が、外へ出て、太陽光でその光り具合を楽しんでいました。

色水広場では、「スライムにお花を入れて光らせたら、もっときれいだったよ！」と年長児。太陽光にあてたり、ライトテーブルの上に置いたりして楽しめます。

サイエンスティーチャーの先生が、虹や光の話をしてくれて、光の万華鏡を作ってくれました。

いろいろな人と関わり合いながら、知らない世界を知り、知識としても光の世界を広げていきます。

また、影にも気付き始めます。「鳥の模様ができたよ！」「私の体だ！」と光があるからこそ、気付く影。

さらなる気付きが広がっていくのかもしれない。

プラスチックケースにマジックで色を付け、園庭で空にかざす年中さん。スライムだけでない、いろいろな媒体を通して光の美しさを味わうことができます。

実はいつも子供たちの身近にある光。

その不思議さ、きれいさ、面白さにふと気付くタイミングがあります。それが偶然の出会いかもしれないし、みんなの時間で他の子の遊びから教えてもらうこともあるでしょう。

そこから自分なりにいろいろな遊びを通して心が動き、豊かな経験となっていきます。

それを環境として光を楽しむ場所を用意し、声掛けをしながら教師は子供たちの思いを支えています。

一人一人興味の持ち方が違い、楽しみ方も多様なところが本当に面白いです。そしてそこに価値を感じます。

さらには光遊び一つしても、スライム、植物、セロハン、影などいろいろな素材や遊びとつながっていくことも面白く、それぞれの遊び自体も深まり、広がっていくようにも思えます。

教師の共に光の世界を探究していきたいですし、そのような姿、遊びをこれからも大切にしていきたいです。

